

## 『キバラカと魔法の馬 アフリカのふしぎばなし』

さくま ゆみこ／編訳  
岩波書店（2019年）

みなさんは日本の民話をいくつ知っていますか？「ももたろう」や「うらしまたろう」、「きんたろう」は知っているという人も多いと思います。また、富田林であれば「天狗の松」や「大石つぶし」が有名でしょうか。全国各地にいろいろな民話があるように、アフリカ各地にも様々な民話があります。その中でもふしぎな精霊や魔神、魔法が出てくる民話が本書では紹介されています。日本の民話とは違うふしぎなアフリカ民話を楽しんでください。



## 『日本民話選』

木下 順二／作 岩波書店（1990年）

この本には日本の民話が13話入っています。絵本にもなっている「大工と鬼六」や「なら梨とり」、「かにむかし」など有名なものから、あまり知られていないであろう「たぬきと山伏」や「木竜うるし」など多彩に採録されています。読み聞かせて読んでもらった時の感じ方と成長してから自分で読んだ感じ方に差があることや、文体が違ふとこんなにも話の印象がかわるのかなど、あらたな発見が多い本になっています。久しぶりに民話の世界にどっぷりはまってみるのはいかがでしょうか。幼い頃と違ったお気に入りの話が見つかるかもしれません。



## 『お月さまのバル』

オセアニアのはなし(世界のメルヘン図書館11)』

小澤 俊夫／編 ぎょうせい（1983年）

オセアニアは、オーストラリアやツバルなど、太平洋上にある大陸や島国の地域を指します。「魚と鳥のたたかい」は現在のミクロネシア・ポンペイ島に伝わる昔話です。ココヤシの実をめぐって魚軍と鳥軍に分かれて戦うというあらすじです。「昔話の中で起こった出来事により、様々な生き物は現在の姿になった」という王道の展開ですが、ガンギエイやハコフグなどのユニークな生き物が登場し、豊かな海に囲まれた南の島の風土を感じさせます。



## 『ラテンアメリカ民話集』

三原 幸久／編訳 岩波書店（2019年）

この本は、スペイン語やポルトガル語文化圏であるラテンアメリカの代表的な民話が37集められています。この地域は皆さんもご存知の通り、植民・移民の歴史がある地域なので、あれ？グリムの話で見たような、さらにページを進めていくと「うさぎとかめ」や「こぶとりじいさん」を思わせる話が出てきます。まだテレビもインターネットもない時代、おじいちゃんやおばあちゃんそのまた上のご先祖様から聞いた面白い話をその地に合うよう登場人物や動植物を変え、語り継がれたことがよくわかります。短い話ばかりなので、隙間時間にぜひどうぞ。

## 『アイヌ童話集』

金田一 京助／著  
荒木田 家寿／著  
KADOKAWA（2019年）



各土地の伝承を集めた「よもやま昔話」、「パンパペじいさんパンパペじいさんの昔話」、アイヌの英雄「オキクルミの昔話」に分けて、16の童話が収録されています。乱暴者が懲らしめられる話や、若者が人喰い馬と友情を結ぶ話など、様々な物語が楽しめます。日本のアイヌ語研究の創始者として知られる金田一京助がアイヌ語で蒐集し、日本語に訳した物語を、実弟の荒木田がわかりやすく書き下ろした本書から、自然や神と語り合うアイヌの暮らしや概念を感じてみてください。

## 『大人と子どものための世界のむかし話16』

アラブのむかし話 レモンの花よめほか』

池田 修／編訳 偕成社（1991年）

この本には、アラブの昔話が6話入っています。表題作にもなっている「レモンの花よめ」は、王子が理想の花嫁を探してエジプト、インド、中国、そして水平線の果ての島まで旅をする物語です。王子は、理想の花嫁に出会うことができるのでしょうか。ほかにも、不思議な臼や皿、杖が登場する「おいかけつえ」や、ジャスミンの香りがする娘の物語、「ジャスミンむすめ」などおもしろい物語がたくさんあります。アラブの国の文化を感じられるアラブの昔話をぜひお楽しみください。

